



Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux がビジネスにも たらずメリットを確認する

セキュリティ重視のハイブリッドクラウド環境によって
クラウドのプロセスを前進させる

目次

1. 企業はクラウドを採用している
2. ハイブリッドクラウド・アプローチのメリット
3. クラウド移行を成功させるための 5 つの考慮事項
4. Red Hat とマイクロソフトのハイブリッドクラウド環境によってクラウドのプロセスを前進させる
5. ビジネスイニシアチブをサポートする共同ソリューション
 - 5.1. 移行と管理の単純化
 - 5.2. セキュリティとコンプライアンスに重点を置く
 - 5.3. サポートと専門知識の統合
 - 5.4. クラウド支出の制御
 - 5.5. CentOS Linux やその他の Linux ディストリビューションから簡単に移行
 - 5.6. SAP 向けに最適化された基盤
6. Red Hat とマイクロソフトの広範なポートフォリオでモダナイゼーションを拡大
7. 開始方法



企業はクラウドを採用している

クラウド・コンピューティングは組織にとって、急速に進化する競争の激しい市場で安定性を維持し、効率を向上させるための最も実行可能な選択肢の1つです。統計によると、パブリッククラウドが引き続き注目を集めています。組織はパブリッククラウドに移行してイノベーションとアジリティを促進し、市場の変化に適応し、既存のシステムをモダン化するだけでなく、そのスケーラビリティ、コストの最適化、セキュリティ機能のメリットを享受しています。

82%

パブリッククラウドを導入している
企業のクラウド意思決定者の割合¹

49%

パブリッククラウド環境で実行されている
エンタープライズ・ワークロードの割合²

48%

パブリッククラウド環境でホストされてい
るエンタープライズ・データの割合²

58%

より多くのワークロードをクラウドに移行
することが最優先の取り組みであると回答
した組織の割合²

クラウド移行により、組織はオンプレミスの課題に対処し、クラウドのメリットを享受できます。

オンプレミスの一般的な課題

- ▶ 手作業が多く、時間のかかるプロセス
- ▶ 非効率的なライセンス管理 (過剰なライセンスコストにつながる)
- ▶ 一貫性のない信頼性と有効性 (ダウンタイムにつながる)
- ▶ スケーラビリティの制約

クラウド移行のメリット

- ▶ スケーラビリティと柔軟性の向上
- ▶ カスタマーエクスペリエンスの向上
- ▶ 経時的なコスト削減、リソースの解放 (イノベーションに集中できる)
- ▶ 物理インフラストラクチャの管理および保守の負担の軽減

66

Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux が登場する前、事業部門はオンプレミスサーバーを要求していましたが、要件によってはデプロイするのに 2 週間から 1 カ月かかっていました。キャパシティやその背後にある他の計画の見直しなど、さまざまな作業が必要だったため、プロセス全体に時間がかかりました。

プロダクトオーナー

エネルギー企業のオペレーティングシステム担当³

99

ハイブリッドクラウド・アプローチのメリット

IDC によると、クラウドへの支出は現在、プラットフォーム、インフラストラクチャ、およびアプリケーションへの支出を上回っています。自動化と運用コスト削減に対する企業の要求を満たすためには、2025 年までに、インフラストラクチャ、セキュリティ、データ、ネットワーク製品の 60% にクラウドベースの制御プラットフォームが必要になります。⁴

それでも、クラウドへの移行によって IT の複雑さが増す可能性があり、組織の 78% はスキルとリソースの不足が課題であると述べています。² 潜在的なセキュリティリスク、運用の非効率性、予算超過を回避しながら、クラウドへの投資を最大限に活用するには、慎重な計画が必要です。

組織は、オンプレミス・インフラストラクチャとクラウドサービスの両方のメリットを活用するために、ハイブリッドクラウド戦略の中でパブリッククラウドリソースを使用することが増えています。このアプローチにより、次のことが可能になります。

- ▶ 重要なデータおよびアプリケーションの制御の維持
- ▶ 規制要件への準拠
- ▶ ライセンスの柔軟性および調達ルートの簡素化の実現

ハイブリッド環境を構築する際に考慮すべき重要なポイントは、セキュリティ、コスト管理、効果的なリソース管理、そしてリソースの可用性の保証です。データセンターとクラウド環境間で一貫性のあるオペレーティングシステム (OS) を使用すると、複雑さを克服し、クラウドへの移行を単純化することができます。



73%

ハイブリッドクラウド戦略を導入している組織の割合²

66

私たちは、可能な限りクラウドネイティブ・テクノロジーを活用してきました。これまでのところ、とてもうまくいっています。現時点では、以前のオンプレミス設定と比較して 20% 以上のコスト削減効果を実現しています。

99

Umeshi de Fonseka 氏

AIA Sri Lanka 最高技術責任者

[事例を読む](#)

5

クラウド移行を成功させるための考慮事項

クラウドに移行する場合は、迅速であることよりも戦略的であることが重要です。クラウド変革の真っ只中にある場合でも、クラウド変革を始めたばかりでも、何が他の企業でうまく機能しているのか、何が自社の進歩を妨げているのか、クラウド戦略の変更が自社の優位性を高めるのに役立つかどうかを考慮することが重要です。ワークロードの迅速な移行ではなく、自動化、アジリティ、カスタマーエクスペリエンスの向上が成功の真の指標となります。



1. クラウドの目標を理解する

自社のクラウド環境への移行動機を知ることが重要です。移行の理由について組織内で整合性が取れていないと、クラウド移行の成功の妨げになることがあります。

動機はたくさんあるかもしれませんが、主な目的は明確である必要があります。コストを削減するためにデータセンターを廃止することや、ビジネス継続性を強化すること、収益を増やすためにアプリケーションをモダナイズすること、新しいクラウドネイティブ・アーキテクチャを導入することなどが考えられます。



4. 環境全体のクラウドセキュリティを効率化する

クラウド導入が進むにつれ、セキュリティは引き続き主要な懸念事項となっており、組織の 81% がクラウドの最大の課題としてセキュリティを挙げています。²

どのような環境においても、一貫性は、セキュリティとコンプライアンスのベストプラクティスの核となるものです。ビジネスを守るためには、データセンターで行っているのと同じレベルのセキュリティポリシーとアクセス制御がクラウド環境でも必要です。

両方の環境で共通の OS を使用すれば、セットアップの違いを心配する必要はありません。



2. クラウドスマートなアプローチを採用する

クラウドへの移行中に、すべてをそのまま「リフトアンドシフト」しないことが重要です。このアプローチは簡単に思えるかもしれませんが、既存のエラーが引き継がれ、複雑さが増すリスクがあります。代わりに、モダナイゼーションに対してより体系的かつ戦略的なアプローチを取りましょう。

すべてを再検討して、機能するものを残し、機能しないものは交換し、それ以外のものは廃棄します。そして、ビジネスに必要な要素だけを移行します。



5. ワークロードを最適化する

クラウドにより、ワークロードをオンデマンドでスケーリングできるようになりましたが、自動的なスケーラビリティによって必要以上の容量を使用する可能性が高くなり、コストが増加します。

コードのガバナンスとインフラストラクチャのテストを実装すれば、この種の不用意な予算超過を回避できます。



3. ハイブリッドクラウドの複雑さを制御する

セキュリティ、管理、可搬性、ライフサイクルの計画は、OS から始まります。OS は環境全体の基盤を形成します。

柔軟に拡張し、可用性を維持し、回復力のあるサービスを提供する能力には、Linux® OS の選択が大きく影響します。データセンターとクラウド環境にまたがる運用基盤を単一の基盤で標準化することで、クラウドへの道筋を大幅に単純化できます。

運用と管理を複数のドメインに分割せずに、同じ一連のツールとプラットフォームを使用して、セキュリティに重点を置きながら、複数の環境にわたってアプリケーションとワークロードをデプロイし、実行し、移動することができます。

Red Hat とマイクロソフトのハイブリッドクラウド環境によってクラウドのプロセスを前進させる

Red Hat® Enterprise Linux は、ハイブリッド環境とマルチクラウド環境に一貫した運用基盤を提供するため、アプリケーションを最適な場所で実行し、組織のニーズに最も適したクラウドプロバイダーを選択できます。Microsoft Azure のパブリッククラウド・プラットフォームは、クラウドでアプリケーションを構築、管理、実行し、オンプレミスとネットワークエッジでサービスを提供する機能を備えています。Red Hat Enterprise Linux は、Microsoft Azure 上での実行が承認されている Linux ディストリビューションです。

Red Hat Enterprise Linux と Microsoft Azure を組み合わせることで、クラウド移行を開始する準備ができている組織に対し、包括的で柔軟かつオープンなソリューションが提供されます。

Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux を使用すると、急速に変化する競争の激しい市場で組織を成功に導く、信頼性と柔軟性に優れたセキュリティ重視のハイブリッドクラウド環境を迅速にデプロイできます。この共同ソリューションによって組織が実現できることは、次のとおりです。

- ▶ オンプレミスおよびクラウド環境全体でテストされ、認定された相互運用性により、アプリケーションを迅速に起動して拡張し、信頼性、セキュリティ、パフォーマンスを向上させます。
- ▶ ハイブリッド環境全体で機能する高度な統合セキュリティ機能を使用して、データ、アプリケーション、インフラストラクチャを保護します。
- ▶ 従来のオンプレミスのアプリケーションとクラウドネイティブ・ワークロードを、一貫性のある基盤と統合します。
- ▶ クラウド環境とオンプレミス環境間でツールと可視性を統合し、管理を効率化します。

両社の統合サポートにより、Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux への移行がより簡単になります。さらに、Microsoft Azure の[確約利用料](#)プログラムを使用している組織は、それを活用して Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux をデプロイできます。

2024 年の Forrester の Total Economic Impact™ 調査によると、Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux を使用している企業は次のようなメリットを実現しています。³

85%

停止に起因するダウンタイムの削減率

80%

データセンターへの支出額の削減率

60%

レガシー・ソリューションのコストの削減率

40%

付加価値のあるビジネスイニシアチブへの FTE 再配分率

192%

3 年間の投資対効果 (ROI)

投資回収期間

6 カ月未満

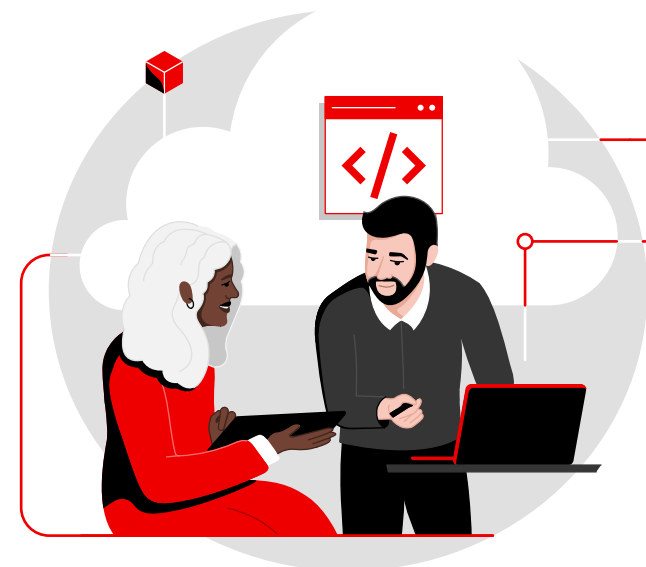
66

私たちが決めた理由はいくつかあります。まず、Azure 上で Red Hat サブスクリプションを使用できる柔軟性があり、組み合わせて使用できるからです。これは私たちにとって非常に大きなメリットです。2 つ目は、[Microsoft] Azure 上で Red Hat Enterprise Linux を実行しているマイクロソフト製品との互換性が保証されていることです。3 つ目は、当社はさまざまな市場でビジネスを展開していますが、ローカルにデプロイされているコアシステムに当社の施設がアクセスできるからです。

グローバルディレクター

卸売・小売業の IT 担当³

99



ビジネスイニシアチブをサポートする共同ソリューション

Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux を使用すると、オープン・ハイブリッドクラウド・アプローチの可能性が最大限に引き出され、投資対効果 (ROI) を最大化し、パフォーマンスとビジネスのレジリエンスを高め、リスクを管理できるため、顧客ベースを拡大し、業界リーダーとしての収益を増大させることができます。

クラウドへの移行理由がどのようなものであっても、Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux はさまざまなメリットを提供できます。

移行と管理の単純化

大規模なハイブリッド環境やマルチクラウド環境での効率的かつ効果的な運用は、複雑になる場合があります。

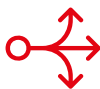
Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux は、選択肢と柔軟性を提供します。セキュリティやレジリエンシー (回復力) を犠牲にすることなく拡張し、ハイブリッド環境およびマルチクラウド環境全体で一貫したエクスペリエンスを提供します。



オンプレミス、クラウド、エッジ環境全体で広範囲にわたる一貫性を実現

Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux により移行が単純化されるため、OS を変更することなく、リスクを抑えながらより迅速にクラウドに移行できます。

IT チームと開発チームは、現在のスキル、プロセス、ツールを引き続き使用して、再トレーニングやその他の修正などによって大きな遅れを生じさせることなく、クラウドとオンプレミスにまたがる環境を管理し自動化することができます。



オンプレミス、クラウド、エッジ環境全体でワークロードを管理

ワークロードがデータセンターからクラウド、そしてエッジへと移動するにつれて、ワークロードの監視と管理はますます複雑になります。

Red Hat Insights (Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションに含まれる) と Azure の可観測性および管理ツールにより、オンプレミスからエッジまでのワークロードを管理し、脆弱性、コンプライアンス、プロビジョニング、パッチ適用に関する主要な IT 課題に対処できます。

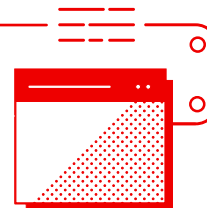
Red Hat ソリューションと Azure Arc (Azure クラウド・プラットフォームを超えて Azure の機能を拡張するソリューション) の統合により、Red Hat Enterprise Linux インフラストラクチャのデプロイメントを広範囲にわたって一元的に管理できます。



スタッフを解放して価値を創出

Red Hat とマイクロソフトのソリューションは、クラウドの調達、使用、保守、管理のプロセスを大幅に単純化し、コスト削減と生産性向上を実現します。

Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux に移行すると、アップデートとパッチの自動化、バックアップと障害復旧の単純化、保守および監視作業の削減により、インフラストラクチャを手動で管理する必要性が軽減されるため、スタッフを再配置して付加価値のあるビジネスイニシアチブに集中させることが可能になります。



Forrester の Total Economic Impact 調査で明らかになったのは、Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux に移行することで、組織は Red Hat Enterprise Linux の信頼性を継続的に確保できるだけでなく、ビジネス継続性の維持とワークロードのレジリエンシーの強化に必要なツールとインフラストラクチャも得ることができるということです。

これらの組織は、オンプレミスのインフラストラクチャをパブリッククラウドサービスと統合することで、機密データの制御を維持し、規制要件を満たしながら、アジリティとコスト効率を向上させました。³

セキュリティとコンプライアンスに重点を置く

クラウドの最大の課題として、企業の 81% は依然としてセキュリティを挙げています。² Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux には、[ライブカーネルパッチ](#)、セキュリティプロファイル、[セキュリティ基準認定](#)、[信頼できるソフトウェア・サプライチェーン](#)などの運用セキュリティ機能が組み込まれており、現在のセキュリティとコンプライアンスに対する高い期待に対処するための助けとなります。

これらの高度なセキュリティ機能により、リスクを軽減し、セキュリティを重視した運用環境を維持し、組織の最も重要なデータをより適切に保護できます。Microsoft Azure 内では、Red Hat Enterprise Linux のセキュリティ管理と脅威保護をデフォルトで有効にすることができます。これらの設定には組み込み型の行動分析があり、機械学習を使用して攻撃やゼロデイエクスプロイトを特定できます。

さらに、Red Hat Enterprise Linux と Microsoft Azure はいずれも、政府および業界の主要な規格に準拠しているため、高度に規制された環境でも自信を持って使用することができます。



統合されたツール

- ▶ Microsoft Azure および Red Hat Enterprise Linux の組み込みのスキャン機能と修復機能によってコンプライアンスを確保する
- ▶ [Red Hat イメージビルダー](#)を使用して Microsoft Azure およびその他の環境全体で一貫性のある強化されたイメージをデプロイする



高度な認証と暗号化

- ▶ リモート認証で環境全体のシステムの整合性を検証する
- ▶ 高度な暗号化機能でクラウド内のデータを保護する



継続的な検証

- ▶ 組み込みの ID 管理とアクセス管理機能によりゼロトラスト・アーキテクチャを実装する
- ▶ システムロールでセキュリティ設定と管理を最適化する



私たちは、オンプレミスのデータセンターでは不可能だったレベルの障害復旧とビジネス継続性を構築することができました。

グローバルディレクター

卸売・小売業の IT 担当³



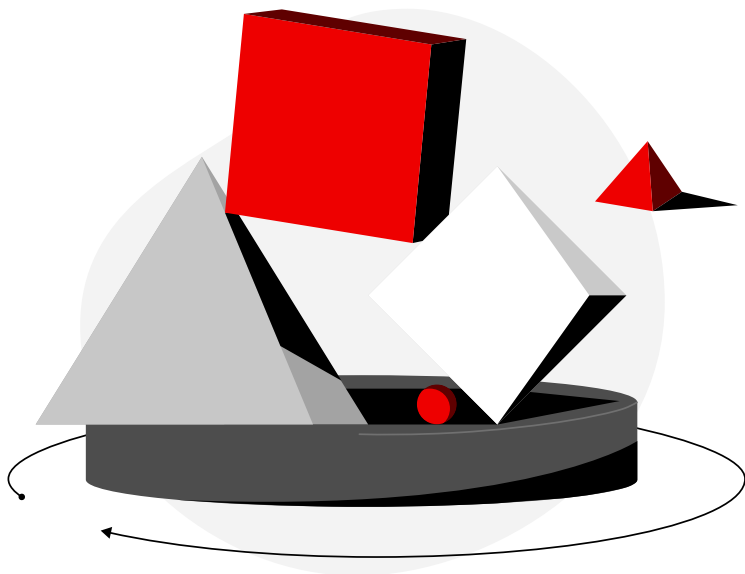
Red Hat Enterprise Linux に統合されている [Red Hat Insights](#) は、オンサイト環境とクラウド環境 (Microsoft Azure を含む) で機能する予測分析ツールであり、単一のインタフェースから両方の環境を管理し最適化することができます。そのコンプライアンスサービスは、組織の環境全体でコンプライアンス要件を順守しているかどうかを追跡できるよう支援し、修復ガイドランスを提供します。

サポートと専門知識の統合

Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux では、マイクロソフトのサポートチームと連携した Red Hat の[受賞歴あるサポート](#)が提供され、組織の目標達成を支援します。サポートに関する問題の解決にかかる時間が短縮され、組織のスタッフはより戦略的なタスクの方に集中できるようになります。

この完全なサポート体験の特長は、複数の地域に多言語を話すエンジニアを有していること、両社のスタッフを同じ場所に配置していること、チケットシステムが統合されていること、効率化された協調的なエスカレーションと解決のプロセスを備えていることです。さらに、Red Hat とマイクロソフトのパートナーエコシステムから追加のサポートを得ることができます。

Forrester の Total Economic Impact 調査では、Red Hat とマイクロソフトによって提供される統合サポートがスムーズなコラボレーションと共同トラブルシューティングを実現していることが明らかとなっています。両社は包括的なサポートと問題解決のための単一の連絡窓口を提供し、全体的なサポートエクスペリエンスを強化し、複雑さを軽減します。³



66

部屋に座ってハードウェアを監視したり、ハードウェアをサポートできるよう待機したりする FTE にコストをかける必要はありません。Azure では、どこからでもログオンでき、サポートできます。

99

グローバルディレクター

卸売・小売業の IT 担当³

クラウド支出の制御

Red Hat と Microsoft Azure は複数の購入オプションを提供しており、組織の調達プロセスに最適なオプションを柔軟に選択できます。

どちらの会社からどのように購入するかは自由に決めることができます。たとえば、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの料金は Red Hat に支払い、仮想マシンの料金は Microsoft Azure に支払う、あるいは一括請求や従量課金制を利用して両方の料金をマイクロソフトに支払うこともできます。



Red Hat からサブスクリプションを購入

Red Hat からサブスクリプションを購入し、オンサイトまたは [Red Hat Cloud Access](#) 経由で Microsoft Azure 上で使用できます。



マイクロソフトからインスタンスを購入

[Azure Marketplace](#) から Red Hat Enterprise Linux のインスタンスを入手できます。Microsoft Private Offers は、[Microsoft Azure Consumption Commitment](#) (MACC) のコミットメントとしてカウントされるカスタマイズされた条件と価格設定で、特定のソリューション要件に合わせて利用できます。



プログラムと割引を使用してコストを最適化

- ▶ [MACC](#)：この確約利用料は Red Hat Enterprise Linux に使用でき、追加の調達承認を得ることなく既存の環境を強化できます。
- ▶ [Azure Hybrid Benefit](#)：リザーブドインスタンスを使用して Linux 向けの Azure Hybrid Benefit を適用すると、標準の従量課金制の料金よりも最大 76% 節約できます。⁵
- ▶ [Red Hat Hybrid Committed Spend プログラム](#)：オンプレミスとクラウドの両方のデプロイメントについて、Red Hat のコミットメントに対する割引が適用されます。このプログラムはクラウドプロバイダーにも適用され、MACC と組み合わせて使用できます。

84%

クラウドの最大の課題としてクラウド支出の管理を挙げている組織の割合²

66

Azure Marketplace を使用すると、ソリューションを考え出す必要がないため、実際の市場投入時間が大幅に短縮されます。ソリューションはすでに用意されています。ネイティブツールを使用するだけで移行と構築が可能です。それらは私たちがすでに使い慣れているツールです。

99

グローバルディレクター
卸売・小売業の IT 担当³

² Flexera、[「Flexera 2024 State of the Cloud Report」](#)、2024 年 3 月。

³ Forrester Consulting による調査 (Red Hat とマイクロソフトの委託により実施)、「[Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux の Total Economic Impact™](#)」、2024 年 1 月。

⁵ 米国東部リージョンで RHEL または SLES サブスクリプションを備えた標準的な D2s v4 Azure VM1 台を従量課金制で運用した場合と 3 年間のリザーブドインスタンスの割引価格で運用した場合の比較に基づくものです。2023 年 6 月時点の Azure の価格に基づいています。価格は変更されることがあります。実際の節約額は、場所、インスタンスの種類、または使用状況によって異なる場合があります。



CentOS Linux やその他の Linux ディストリビューションから簡単に移行

CentOS Linux やその他のコミュニティベースのセルフサポート型 Linux ディストリビューションを使用している組織は、それらのディストリビューションが廃止された場合にどうするかという選択に直面します。新しいオペレーティングシステムの実装は面倒に思えるかもしれませんが、これを機に、組織は自社のニーズを再評価し、現在および将来にわたってクラウド戦略をより適切にサポートするプラットフォームを選択することができます。適切な Linux プラットフォームで標準化すると、複数の OS の管理、セキュリティリスク、クラウドベンダーのロックイン、サービスの中断、コストの高騰を回避できます。

フルサポート付きの Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux に移行すると、予測可能な 10 年間のライフサイクルが提供されます。また、移行は簡単で、CentOS Linux と非常によく似たユーザーエクスペリエンスを備えたデプロイメントがもたらされます。CentOS Linux は Red Hat が公開したソースから派生したものであったので、同じスキル、技術、要素の多くを引き続き使用でき、また、クラウドで成功するために必要な機能、ツール、サポート、価値を獲得できます。

Red Hat は、CentOS Linux ユーザーが Red Hat Enterprise Linux に移行し、環境の一貫性を維持できるようサポートするために、[Red Hat Enterprise Linux for Third Party Linux Migration](#)* を作成しました。これは価格競争力のあるサービスで、Azure Marketplace で入手でき、以下が含まれます。



Red Hat Enterprise Linux の大幅に値下げされたサブスクリプション

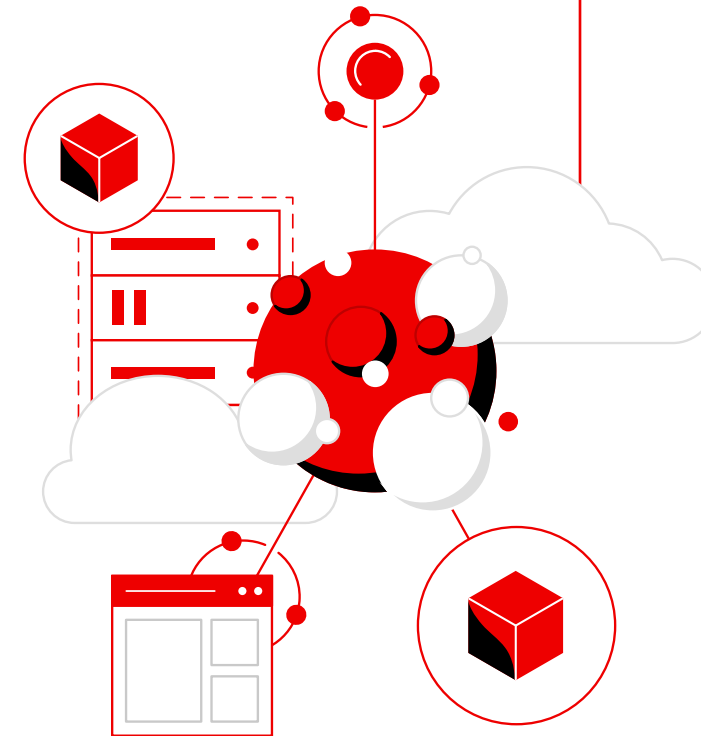


CentOS Linux 7 のインプレースインストールを Red Hat Enterprise Linux 7 に変換する [Convert2RHEL](#) ツール



Red Hat Enterprise Linux 7 への変換後に提供される、最長 4 年間の延長ライフサイクルサポート

Red Hat のコンサルタントが、CentOS Linux から Red Hat Enterprise Linux への移行を効率化するための専門知識とベストプラクティスを提供します。効果的な計画と分析のためのパーソナライズされたフレームワークを 2 週間以内に提供し、Azure 上または Azure に移行する予定のオンプレミス上のシステムを、CentOS から、サポートされている Red Hat Enterprise Linux に容易に変換できるようサポートします。詳細については、[こちらをご覧ください](#)。



SAP 向けに最適化された基盤

SAP® の状況は変化しています。現在、SAP 以外のデータベースで SAP のアプリケーションとワークロードを実行している SAP のお客様は、2027 年までに SAP HANA® および SAP S/4HANA® に移行する必要があります。多くの組織はすでにこの移行の準備を進めており、さらにデジタル・トランスフォーメーションの取り組みをサポートするために環境を最適化しています。

Red Hat Enterprise Linux for SAP Solutions は、Red Hat Enterprise Linux の信頼性、スケーラビリティ、パフォーマンスと、SAP ランドスケープの運用に特化したコンテンツを組み合わせたものです。

Microsoft Azure は、メモリー集約型の SAP HANA ワークロードに対応する強力なスケーラブルなクラウド基盤を形成し、SAP HANA を実行する大規模なパブリッククラウド資産をサポートします。

SAP 認定の Red Hat Enterprise Linux for SAP Solutions と Microsoft Azure を組み合わせることで、SAP 環境をサポートする主要機能が提供されます。それには次のようなものがあります。

- ▶ [ニアゼロダウンタイムのメンテナンス \(nZDTM\)](#)
- ▶ ビジネスを前進させるより良い意思決定を行うために必要な情報と洞察への迅速なアクセス
- ▶ リスクを事前に検出し、潜在的な問題を自動的に修復することで対応を軽減するための予測分析
- ▶ コンプライアンス、ガバナンス、セキュリティへの重点強化
- ▶ エラーが発生しやすく時間のかかる手動タスクを排除し、セキュリティを重視した堅牢で管理しやすい SAP ワークロード環境を実現するための自動化
- ▶ Day 0 から Day 1 までの摩擦は最小限

さらに、Red Hat、SAP、マイクロソフトは、包括的で統合されたグローバルサービスでお客様の環境全体をカバーする、単純化された手間のかからないサポートモデルを提供します。

こちらをご覧ください

....

66

このツールの構築方法により、SAP Basis チームのメンバーは誰でも、故障を恐れることなくスタンドアロンシステムをアップグレードできます。すぐに習得でき、使いやすく、さまざまなワークロードやターゲットのリリースバージョンに柔軟に対応できます。

Pedro Proenca Relvas 氏

COFCO International、SAP Basis エンジニア

[事例を読む](#)

99

Red Hat とマイクロソフトの広範なポートフォリオでモダナイゼーションを拡大

先進的な組織は、新しいテクノロジーを活用してイノベーションをさらに進めたいと考えています。しかし、複雑さが増すと、影響を与える能力が抑制されてしまいます。組織には、新しい機会を迅速に活用できるオープンで統合されたプラットフォームとエコシステムが必要です。

Red Hat とマイクロソフトは、組織がデジタル・トランスフォーメーションのどの段階にあるかに関わらず、ハイブリッドクラウドの複雑さに対処し、クラウドネイティブ・アプリケーション開発を行い、急速に変化する競争の激しい市場で成功できるよう支援します。両社のパートナーシップにより、IT 部門は既存のアプリケーションを放棄する必要がなくなります。自社の条件に合わせた戦略的な移行、再設計、またはリファクタリングが可能になり、自動化とクラウドネイティブ・アプリケーション開発を導入することもできます。



アプリケーション開発の高速化

革新的なアプリケーションは現代のビジネスの中核であり、組織、パートナー、お客様をつなぎ、すべての人に価値あるユーザーエクスペリエンスを提供します。ハイブリッド環境全体にわたって、セキュリティ重視の反復可能な方法でアプリケーションを迅速に構築、デプロイ、更新、拡張することで、ビジネスの新たな可能性を引き出すことができます。

Microsoft Azure Red Hat OpenShift® は、アプリケーションの開発とデリバリーを変革するための、信頼できるクラウドベースの基盤を提供し、組織を支援します。

- ▶ 開発者のために、一貫性があり最適化されたフル機能のエクスペリエンスを作成する
- ▶ サポートコストを削減し、業務効率を向上させる
- ▶ 価値の高いアプリケーションの革新と開発のために従業員が必要とするサービスを、効率化して迅速に提供する
- ▶ 両社の豊富な経験、移行計画の支援、マネージド運用により、デプロイメントと価値実現までの時間を高速化する
- ▶ 必要に応じて Azure クラウドサービス、開発者ツール、サードパーティ製品を統合する



自動化戦略の策定

IT 自動化は、クラウドへの移行とクラウド環境の広範囲にわたる管理をより効率的に行うのに役立ちます。

Microsoft Azure 上の Red Hat Ansible® Automation Platform は、全社的に自動化を導入するアプローチを支援します。このアプローチにより、複雑な環境の管理が容易になり、業務が可視化され、新しいテクノロジーとプロセスを効率的に統合できるようになります。これは次のことに役立ちます。

- ▶ 一貫した運用フレームワークと再利用可能なワークフローで、ハイブリッドクラウド環境全体を接続する
- ▶ 生産性を高め、運用コストを削減する
- ▶ アプリケーションの開発とデリバリーなど、運用を効率化および高速化する
- ▶ ダウンタイムやコンプライアンス問題の原因となるエラーや設定ミスを削減する
- ▶ スタッフの負担を軽減して、価値の高いやりがいのあるプロジェクトに集中できるようにする

66

クラウドサービス向けの実績あるソリューションである Microsoft Azure 上の Red Hat スタックにより、当社はよりスピードアップし、ニーズを満たすハイブリッドクラウド・インフラストラクチャを作成できるようになりました。たとえば、Microsoft Azure 上の Red Hat OpenShift Container Platform を使用すると、インフラストラクチャを待たずに新しいアプリケーションの実装をすぐに開始できるため、わずか数日で結果を出し、わずか数週間後には実用最小限の製品 (MVP) を得ることができます。

99

Johannes Hansen 氏

ルフトハンザ テクニック AG、デジタルフリートソリューション、アプリケーション開発およびユーザーエクスペリエンス担当シニアディレクター

[事例を読む](#)

開始方法

お客様のニーズに最適な方法で Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux を簡単に実装できるようにしました。



Red Hat Enterprise Linux をすでに使用している場合

Red Hat サブスクリプションのメリット (受賞歴のあるサポート等) はそのまま、[Red Hat Cloud Access](#) によりサブスクリプションを Microsoft Azure に移行できます。



Microsoft Azure をすでに使用している場合

[Microsoft Azure Marketplace](#) での [Red Hat Enterprise Linux の購入](#) に Microsoft Azure の[確約利用料](#)を充てることができます。



どちらも初めて使用する場合

Red Hat Enterprise Linux と Microsoft Azure でクラウドを開始する際の[すべてのオプションをご確認ください](#)。

66

[Microsoft Azure 上の Red Hat Enterprise Linux] は、業界標準でサポートされているソフトウェア・プラットフォームを使用しているという安心感を与えてくれます。

99

グローバルディレクター

卸売・小売業の IT 担当³

